

日本社会学史学会ニュース No. 146

日本社会学史学会事務局
(2023年12月21日発行)

1. 2023年度本学会研究例会開催のお知らせ

本年度本学会研究例会を下記のとおり開催いたします

- (1) 日時：2024年1月27日(土) 14時～17時
- (2) 場所：オンライン Zoom 開催 (本学会HPを参照しアクセスください)
- (3) 報告者および報告題目

☆共通テーマ「作田啓一の社会学」

☆司会者 鈴木健之会員 (立正大学)

☆報告者 岡崎宏樹会員 (神戸学院大学)

題目「作田啓一『価値の社会学』再考」

☆報告者 出口剛司会員 (東京大学)

題目「近代の超克と初期作田における「価値の社会学」構想」

2. 2024年度・第63回日本社会学史学会大会は立正大学にて開催

来年度本学会大会は、2024年6月22日(土)～23日(日)の両日、立正大学文学部(東京・品川キャンパス)において開催いたします。

大会の詳細は、次回本学会ニュースおよびHP上にてお知らせいたします。

3. 会務報告

- (1) 2023年度第3回理事会 (10月28日 オンライン Zoom 会議)

① 2023年度本学会研究例会について

② 2024年度・第63回本学会大会シンポジウムについて

2023年度より3年間、「社会学史を通じて「社会学」を問う」というテーマでシンポジウムを企画してきた。2022年度は1980年代から1920年代にかけてのアカデミックな社会学の草創期、2023年度は1920年代から1960年代までの制度化の時代を取り上げた。

2024年度のシンポジウムで扱いたいのは、この時代以後、社会学の理論はどう変化したのか(あるいは、あまり変化しなかったのか)という問題である。とはいえ、ただ1回のシンポジウムで、このような大きな問題を包括的に扱うには時間的制約もある。そのため、今回のシンポジウムでは3つの点に絞って、この時代の社会学の「変化」を検討し

たいと考える。

1つ目は、ミッシェル・フーコー（自他共に「社会学者」とは認めていませんが）が社会学理論に及ぼしたもの、2つ目は、1970年代以後のフェミニズムが社会学理論に及ぼしたもの、さらに3つ目は、この時代から自他共に認める社会学理論の中心的存在であったニクラス・ルーマンの理論的変容である。

なお、本シンポジウムで扱う「1970年代以後の時代」の「以後」を、1990年代までととるか、現代までととるかは明確に決めないことにする。報告者におまかせすることにしたい。

シンポジウム登壇者等の詳細は、次号本学会ニュースをご参照ください。

③選挙管理委員会の設置について

④本学会HPリニューアル作業について

(2) 2023年度本学会第1回関西研究例会開催

11月18日（土）、本学会関西研究例会が京都大学にて開催されました。

①報告者：荻野昌弘会員（関西学院大学）

題 目：「21世紀の社会学－時間・空間・物体から考える－」

②報告者：梅村麦生会員（神戸大学）

題 目：「社会学史はいかにして可能か：今日におけるその可能性と課題」

4. 本学会奨励賞募集（告知）

2024年度本学会奨励賞を募集いたします。詳細は本学会HPをご参照ください。

5. 新住所・所属変更（以下省略）

①三須田善暢（岩手県立大学）住所変更

6. 退会

①菅 康弘、②宮原浩二郎

☆日本社会学史学会事務局

<http://www.jashs.jp/>

mail@jashs.jp

〒156-8550

東京都世田谷区桜上水3-25-40

日本大学文理学部社会学研究室内

TEL 03-5317-8978（庶務担当）

FAX 03-5317-9423

振替口座00180-6-85671

事務局電話受付時間、原則、火・水・木です